

リーディングDXスクール事業【AIパイロット校】

刈田町立与原小学校（福岡県）【指定校】

<校務利用> ⑤ 報告書の作成

ChatGPT3.5、4.0使用

研修会に出席し、学んだことを共有したり広めたりするためには、研修報告書の作成が欠かせない。研修会に参加していない人にもわかるように、また、研修後すぐに作成できるようにChatGPTで次のようなテンプレートを作成し活用した。

- 研修中のメモをそのままプロンプトの「# 内容」に入力する。
- 「# 内容」は、研修主題や研修で得られた気づき等、工夫する。
- 文字数や文体等の条件を示す。

教師が入力

プロンプト
あなたは教員の研修報告書を作成するためのプロフェッショナルなガイドラインを持っています。以下の条件と内容に基づき、研修報告書のタイトルと本文を作成してください。

条件：

- ・文字数はA4サイズ1枚程度（約500～800文字）
- ・文章は簡潔かつ明瞭に。
- ・文体は常体で統一。

内容：

研修の主題：「リーディングDX指導助言」

重点項目：

- ・自己選択・自己調整の場をつくる。
- ・協働的な学び ALTと学ぶだけでも協働的になる。
- ・一人の方が集中してできる児童は、自分ですることを選択。
- ・教師主導がなくなるわけではない。規律等、教えることも大事。
- ・コーチングの手法で質問形式で学びを自覚させていく。
- ・タブレットを使うのは、授業を変革するため。
- ・子どもがどのように思っているのか、感じているのか声を聞く学校は、進んでいく。
- ・子どもに委ねた風になっていないか？教師の子どもを理解する力や導くことも必要。
- ・子どもの問いを誘発して、やる気スイッチを入れる。

結論：自校の授業を見直す視点をもつことができた。優先順位をつけて改善していきたい。

出力形式：

タイトル：研修報告書の主題を反映したタイトルを付けてください。
本文：上記の条件と内容を基に報告書の本文を作成してください。

ここに研修中のメモを入力する

AIが出力

📌 タイトル：リーディングDX指導助言研修報告書

本文：

2024年12月〇日に行われた「リーディングDX指導助言」に関する研修について報告する。本研修の目的は、タブレットを活用した授業の変革を促し、児童が主体的に学ぶ場を構築するための指導方法学ぶことであった。

研修では、以下の重点項目について助言がなされた。まず、児童が自己選択・自己調整を行う場を設ける重要性が挙げられた。一人で集中して学ぶことが得意な児童には、自分で行う課題を選ぶようにし、協働的な学びが効果的な場面では、ALTとの活動を通じて自然な形で協働性を育むべきとされた。一方で、教師主導の役割が全くなくなるわけではなく、規律や基本的な学びの姿勢を教えることも引き続き重要であることが強調された。

また、コーチングの手法を取り入れ、児童に質問形式で学びを振り返らせ、自覚を促すアプローチが有効とされた。タブレットは単なるツールではなく、授業そのものを変革するための鍵であることが示され、児童の感じ方や意見を聞き取る姿勢の大切さが述べられた。この姿勢が学校全体の進化を促す原動力になると指摘された。

さらに、「子どもに委ねている風になっていないか」という点も重要とされた。教師自身が児童を理解し、適切に導くことが不可欠であり、児童の問いに丁寧に答え、やる気スイッチを入れることが求められた。

ChatGPTにメッセージを送信する

これまでに作成した報告書をコピーして読み取らせ、「今後このような報告書を作成するためのプロンプトテンプレートを作成してください。」と指示することで、プロンプトテンプレートを作成することができた。研修会では、教師はメモをとることに集中でき、研修後すぐに報告書を作成できた。

< 課題と解決策 >

課題 1：ChatGPTは入力された情報を基に文章を生成するため、不正確な情報や研修の意図と異なる内容が出力される場合がある。

解決策：最終的な確認と修正を教師が行い、内容の整合性や意図が正確に反映されているかチェックする。

課題 2：細かいニュアンスや研修特有の背景知識を十分に反映できない場合がある。

解決策：ChatGPTに「研修の背景」や「重要なポイント」を具体的に伝え、修正指示を繰り返すことで精度を高める。

課題 3：便利さゆえに、教員が自ら考えたり文章を作成する機会が減る可能性がある。

解決策：ChatGPTは「補助ツール」と位置付け、あくまで報告書作成の補完として利用するように共通理解する。